Info!

京都大学情報環境機構広報誌「Info!」

2015.10.26 No.5

Contents

留学生特集 …… 2

留学生とICTについて語る …… 2

セキュリティ関連で注意して欲しいこと …… 10

京都大学の情報環境についての印象 …… 14

東南アジアのネットカフェ事情 ― シンガポールを例として …… 17

京都大学―カリフォルニア大学Davis校
スタッフインターンシップ交換プログラム …… 21

Microsoft社主要製品の販売価格・内容が変わります …… 27

大学生活に役立つスマホアプリ・ツール紹介 …… 28

事務用統合ファイルサーバサービスの展開について …… 29

無線LANみあこネット（MIAKO）のサービス終了について …… 30

イベント情報 …… 31

セキュリティの話題から（第6回）
『あなたのパソコンの中、どのような重要な情報が保存されてますか?』 …… 32

ISSN 2188-7195

特集

留学生特集

京都は国際的な町ですが、京都大学もそれに劣らずどんどんインターナショナルなキャンパスになりつつあります。また10月には新しい留学生や外国人の研究生なども新たにメンバーに加わりました。
そこで今回は、「留学生特集」と称して、留学生が京都大学のICT環境をどう見ているかやそれぞれの留学生の出身国のICT関連の話題を取り上げることにしました。
留学生や研究生を受け入れる研究室や事務スタッフの方々の参考になれば幸いです。
Info!としては初めての試みとして、日本語と英語の両方で記事を提供することにしました。投稿者や座談会への参加者の皆さんのご協力で興味深い内容を集めることができたと思います。どうぞお楽しみ下さい。

特集号編集委員　斉藤 康己

Kyoto is an international city, and Kyoto University campus is becomming more and more international recently.
In October new foreign students and research students joined our university.
Thus, we decided to create a special "foreign students" issue featuring how they look Kyoto University's ICT services and ICT related topics of their mother countries.
We believe these articles will help research labs and staff who will welcome new foreign students.
We have both English and Japanese texts for the first time in Info!. Thanks to all the contibutors and participants in the talk session, we can assemble interesting articles. Please enjoy!

Special issue editor: Yasuki SAITO

留学生とICTについて語る

中国、ネパール、トルコ、韓国からの留学生5名をお招きし、各国のインターネット事情や京都大学のICTについて日頃感じておられることをお話しいただきました。

出席者　沈　元（チン　ゲン）(M1、中国)　董　楽（ドン レ）(D1、中国)
ケシ サラダ（M1、ネパール）　エリフ ベルナ ヴァル（研究生、トルコ）
李ミンソン（イ ミンソン）（D2、韓国）

（司会進行：斉藤 康己、永井 靖浩）

董　楽（ドン レ）(D1、中国)
DONG LE　(D1, CHINA)

沈　元（チン ゲン）(M1、中国)
SHEN YUAN　(M1, CHINA)

ケシ サラダ（M1、ネパール）
KC SHARDA (M1, NEPAL)

エリフ ベルナ ヴァル（研究生、トルコ）
VAR, ELIF BERNA (Research Student, TURKEY)

李ミンソン（イ ミンソン）（D2、韓国）
LEE MIN SEON (D2, KOREA)

斉　藤：早速自己紹介からお願いします。
　李　：韓国から来ました。2010（平成22）年頃から、情報学研究科で暗号アルゴリズムの研究をしています。
エリフ：トルコから4月に京大にきた研究生です。大学院に行く予定です。トルコの古い建物をどうやって保全す

れば良いかに関心があり、日本の古い建造物の保全を勉強するために日本にきました。

サラダ：ネパールからきました。昨年東京で日本語を勉強した後、4月に京大にきたＭ１です。どうやったら土壌をよくできるか、環境を良い状態にしたまま農業を継続的に行えるかの研究をしています。

董　：中国の河北省(北京の隣の省)からきました。5年間仕事をした後、2013（平成25）年4月から京大大学院にきました。4月から地球環境学舎の環境経済の研究室に在籍しており、ケニアに対する日本と中国からの国際開発援助について研究しています。

沈　：中国の上海から来ました、地球環境学舎で藻類の研究をしています。

斉　藤：皆さんが日本に来る前に小学校や中学校でコンピュータやインターネットをどのように使っていたかを紹介してください。

沈　：小学生の時はパソコンは無かったですが、中学生のあたりからパソコンはありました。音楽や動画をダウンロードしていましたが、インターネットの接続速度が遅くて、日本の速度から比べるとかなり遅いです。BT（BitTorrent）をよく使っていました。上海は人口が1,000万人強で、インターネットの普及率は中国の中でも進んでいます。回線の速度は10Mbpsから100Ｍbpsぐらいです。WiFiとか携帯電話は普及しています。レストランとかカフェでは無料のWiFiが使えて日本よりも便利です。

董　：小学生の時、コンピュータは学校だけで、家には無かった。中学校1年生の時、パソコンを買いましたが、大きなものでした。高校生から小さいパソコンになりました。でも、インターネットは大変遅くて、電話経由でインターネットを使うと電話が使えず不便でした。高校生頃からいろんなISP会社ができて、遅いのや速いのとかいろんなサービスメニューがありました。高校生の時にレストランとカフェの無料WiFiはなかったけれど、北京オリンピックの時に無料WiFiになりました。

サラダ：ネパールは、とってもとっても不便な国です。小学生の時はコンピュータの勉強はありませんでした。大学生の時、メールアドレスを使うことがありましたが、学校や自宅で十分なコンピュータは無いので、見ることができない。それで、お金を払って使うサイバーというところで、メールをチェックしたりしました。携帯電話(GSM)はインターネットは使えなかったが、新しい携帯電話でフェイスブックだけ利用できるようになりました。日本に来たら、何でもできる、とってもおもしろいしありがたいです。

斉　藤：お金を払って使うサイバーって、日本でいうインターネットカフェみたいな場所ですか？

サラダ：パソコンが10台ぐらいあって、1時間で２０ルピーぐらい。日本で２００円ぐらい。大学の終わりくらいにパソコンが必要と思って、両親がパソコンを買ってくれて、それからレポートとかに使いました。インターネットはあったが、ネパールでは電気が切れる時間が長いんです。冬なんか２０時間ぐらい電気が切れる。電気がないので、パソコンは使えなかった。

斉　藤：サラダさん、メールとかフェイスブックのようなSNSは使ってましたか？

サラダ：そんなに使わない。２週間に１回くらい。インターネットカフェのようなお店に行くのに、バスで８ルピーぐらい使って、20ルピーで１時間ぐらいネットを使って戻ります。お金が高いので、なかなか行けません。

斉　藤：最近は便利になったの？　不便だったのは何年前ぐらい？

サラダ：６年ぐらい前。今は携帯やスマホを使うようになりました。今はネパールから他の国(マレーシアとかヨーロッパなど)に行く人たちが沢山いて、彼らは２年後に新しい携帯を買って、古い携帯をネパールに送るんです。そこで、１つの家で１台スマートフォンを使うことができます。

エリフ：小学校１年まで岡山にいました。小学生時代にはお父さんの古いパソコンがあったので、それで宿題もしました。でも、私は本の方をよく使いました。日本からトルコに戻って、中学生時代PCを使うための授業があって色んなことをネットから探しました。日本に来て一番意外だったのは、トルコの大学寮では部屋にWiFiがあったが、今住んでいる宇治の黄檗寮では、WiFiじゃなくて、有線のインターネットケーブルがあった。これの使い方がよくわからない。

李　：初めて家にパソコンを買ったのは、私が小学生だった1990（平成2）年ぐらい。そのパソコンで、お兄ちゃ

んはパソコンゲームをするために、カセットテープを使っていたことを覚えています。たしか、ローディングに20分ほど掛かりました。1995（平成7）年、Windowsが発売され、私ははじめてモデム、そしてe-mailを使いました。2000（平成12）年にはADSLが入り、日本のネットカフェに近い施設（通称：PCバン）がブームになりました。当時、韓国の青少年たちに大人気だったパソコンのオンラインゲームがブームを支えたと思います。当時は、家にパソコンがあっても、ネット環境が揃ってない家庭が多数でした。「ひかり回線」が流行り、家庭でもPCバンのような速さでネット環境が揃ったことで、PCバンのブームはいったん落ち着いたと思います。最近は、レストランやカフェでもWiFiでインターネットが楽しめるようになりました。

斉　藤：eduroamは聞いたことがありますか？　国でも使ってましたか？
　李　：韓国で使ったことはありません。普及していないと思います。
エリフ：トルコの大学で使ったことがあるけれど、他の国でも使えるというのは初めて知った。
斉　藤：みなさんの国で、オープンスペースラボのようにパソコンがいっぱい置いてある部屋がありましたか？
エリフ：あったけど、プリントしたいとき、お金を払わないと使えなかった（有料）。京大は２００枚までは無料でプリントできるので、ありがたい。
永　井：ICカードの利用はどうですか？　例えば、京都大学では学生証はICカードになっていて、生協の電子マネーとか、授業の出席確認に使っています。
　李　：韓国はありました。
エリフ：トルコだったら、建物に入るときではなく、例えばカフェテリアに入るときや、大学構内に入るときに使う。（一般の人は大学構内に入れない）

斉　藤：教育支援システムですが、PandAとかCALLとか聞いたことがありますか？
　董　：TAをしてたのでわかる。
　沈　：わかるんですけど、普段はKULASISとPandAしか使わないです。
永　井：PandAはe-ラーニングに近くて、インタラクティブに授業ができるんだけど、周りの先生に使ってもらってくださいネ。
みんな：先生が使わないと解らない・・・
斉　藤：OCWとかMOOCとか聞いたことがありますか？
みんな：あまりない。

斉　藤：京都大学のICT環境を使って、びっくりしたことは何ですか？　さっきエリフさんが、黄檗寮で部屋が有線だけで無線が使えないという話がありましたが、その他に・・・
　董　：インターネットのスピードが速い。
　沈　：P2Pソフトを使う人がいないからかな？
斉　藤：京大のICTで一番使っているのは何ですか？
　李　：京大のICTシステムは学生にとって恵まれた環境だと思います。中央図書館のパソコンは、いろんな学生のニーズに合わせて、必要なソフトウェアが既に設置されているので便利です。プリントは年間200枚まで無料で印刷できるので、資料探しとプリントが特に便利と感じています。なお、学生固有のアカウントで自分のデータが保護されており、家で自分のパソコンを使って作業するより速いです。
　沈　：eduroamのWiFiが自分の研究室のWiFiよりも早い。
　董　：大阪に住んでいるが、図書館の検索ができるというのがすごいと思う。
斉　藤：リモートで入れるようになっています。お国ではなかった？？
　董　：昔はできなかったが、今は国の大学にアクセスできる。

斉　藤：京大のICTで何か不便に思ったことがあれば教えてください。
　董　：インターネットのメニューガイドが全部日本語。中国人の場合は、漢字があるので少しわかるが、英語圏からだとわからないと思う。図書館のサーチをしようとすると全部日本語。図書館の方は英語がちゃんとあるが、VPNで家から入る入り方のようなものやセットアップの説明資料が日本語しかない。
斉　藤：パソコンのセットアップとかで困ったことはありますか？　ネットワークの設定とか、家からの設定、メールのPOPとかの設定とかで？
エリフ：MIAKOが使えなかった。どうやって使うのかわからなかった。
斉　藤：KUINS-Airというのがあって、ECS-IDとパスワードで入れるので、それを使ってほしい。グーグルのサービスとかフェイスブックは使ってますか？
　董　：中国ではフェイスブックとかツィッターは使えない。ユーチューブも使えない。グーグルのサービスも使えない。ヤフーは2年前閉めた。
斉　藤：代わりに何を使っていますか？
　董　：中国のフェイスブック。Gメールはできない。中国版ツイッター「新浪微博（シナ・ウェイボー／weibo）」
　沈　：上海はGメールができる。
　董　：グーグルのＥメールは直接受け取ることはできない（北京で）。中国外のサービスにつなぐために、スペシャルVPNのサービスを買うことができるが、それは違法。でも、それをやっている人は多い。
斉　藤：P2Pは京都大学で禁止されていることを知っていますか？
　沈　：学校外ではBitTorrentは使ったことがある(構内で使ったことがない)。
斉　藤：BitTorrentもP2P。
エリフ：昔はある会社が私の知らない間に私の個人情報を他の会社に渡しても大丈夫だったけど、今年からトルコでは禁止されるようになった。
董、沈：個人情報の流出、中国でもあります。毎日スパムもいっぱい来ます。

斉　藤：最後に情報モラルについて。著作権とか違法コピーという話題に関してですが、よく例に出されるけど、中国だとコピーしても良いんだというような風潮があるのかしら？
　沈　：今でもそう。
斉　藤：それはどうして？ だめだという法律がないから？
　沈　：大学とか企業のパソコンでは違法なコピーはだめだけれど、個人のパソコンだと大丈夫。一般的な中国人はそっちの方が安いということで使っている。京大の図書館で本をコピーしようとしたら、ダメと言われた。中国では大丈夫。
斉　藤：学術目的で研究用とかだと大丈夫だと思うけど。
　沈　：古い文献は劣化保護とかでコピーできない。写真を撮ることもダメ。中国ではそれは大丈夫。図書館の中で自分の携帯で写真を撮ろうとしたらダメと言われた。そのページが欲しいと思って写真を撮ろうとしたらダメと言われた。中国ではほぼ自由にコピーできる。コンピュータで読むより、紙で読むほうが楽。

斉　藤：大学としてこういうサービスをしてほしいとか、ここが変ということはありますか？
サラダ：KULASISからのメール、いつも同じメールなのに２通来る。同じメールなので１通で良いのに。
エリフ：ECS-IDのパスワードを忘れたときに、南館まで行かないといけないのが不便。オンラインで再設定できるようにしてほしい。
サラダ：家で使えるパソコンがない。プレゼンテーションの資料とか作るときは、家を早く出て研究室に行って、夜遅くまでやって帰ります。買おうと思ったのですが、お金がないので、買っていません。研究室にパソコンが無い人もあって、パソコンを買わないといけない人がいました。毎日重いパソコンを持って来ていて、雨が降ると持ち運びが大変・・・

斉　藤：予定時間になりました。今日は貴重な話をありがとうございました。

(雑感)いろんなお国の事情を知ることができ、あっという間の時間でした。
英語での発信が必須であることを再認識。

[English version] Discussion with foreign students about ICT

We invited five International students from China, Nepal, Turkey and Korea for this discussion meeting. They shared the IT situations of their country and their own ideas about ICT of Kyoto University.

Participants

SHEN YUAN(M1, CHINA)
DONG LE(D1, CHINA)
KC SHARDA (M1, NEPAL)
VAR, ELIF BERNA (Research Student, TURKEY)
LEE MIN SEON (D2, KOREA)

(Moderators: YASUKI SAITO & YASUHIRO NAGAI)

SAITO：Could you introduce yourself?

LEE: I'm from Korea. I have been studying cryptographic algorithm in Graduate School of Informatics since 2010.

ELIF : I came to Kyoto University in April from Turkey. Now I am a research student and will be a PhD student taking entrance exam. I came to Japan to study how to maintain traditional buildings in Turkey.

SHARDA：I came to Japan last April from Nepal. I had studied Japanese language in Tokyo and came to Kyoto University this April. I am M1 student. Here I am studying how to keep the soil in a good condition for farming keeping the environment in a good condition.

DONG：I am from Hebei Province, China, next to Beijing. After working for 5 years, I came to the master's course in Kyoto University from April, 2013. I studied environment management and now belong to the lab of Environment Economics, the Graduate School of Global Environmental Studies. I am studying the international development assistance from Japan and China to Kenya, which is the theme of my research.

SHEN：I am from Shanghai, China. I am studying Algae in the Graduate School of Global Environmental Studies.

SAITO：Could you tell us how you use Computer or the Internet in primary school or junior high school days before coming to Japan?

SHEN：We didn't have PC in our primary school days. We had one from junior high school days. The connection speed of the Internet was very slow and much slower than that of Japan. I downloaded some music and movies and used to use BT (BitTorrent). The population of Shanghai is more than 10,000,000 and the Internet is widely used. The speed of the line is 10Mbps-100Mbps. WiFi and mobile phones are also available. We can use free-WiFi in restaurants or in cafes and it's convenient than those in Japan.

DONG：In my hometown, we had PC only in school as a primary school days and we didn't have one at home. I got my PC at home when I was in the first grade of junior high school, which was very big. I don't have my own PC but the PC became smaller since then. The Internet speed was very slow and I used the same line of telephone. So I couldn't use telephone and the Internet at the same time. Some ISPs started internet connection service from my senior high school days and there are various services(slow & quick). There was no free-WiFi in restaurants and in cafes in my senior high school days. Around and after Beijing Olympic there are more and more free-Wifi in restaurants and cafés.

SHARDA：Nepal is a very inconvenient country compared to Japan. We had TV in our house but we didn't have PC during my school days. We didn't have a computer class in our primary school days. I had a chance to use

PC when I entered the college. After that I had a chance to use my mail address. We had just a few computers and it was difficult for everyone to use computers. Although I got my mail address, we couldn't check it at school. I couldn't check at home as well because there is no computer in my house. So I used to check my mails at Cyber paying money. We don't use the Internet with our mobiles, just for giving and picking calls. After graduation, we could use Facebook with our mobiles. I can do everything I want in Japan. I am very thankful to it.

SAITO: Cyber(charged) means the Internet Cafe in Japan?

SHARDA: Yes. There are about 10 PCs and 20 Rupee(Nepalese currency) /1 hour , 200 yen/1 hour in Japan. Before finishing the university, I thought that I needed a PC and my parents bought me one. And then, I used it for writing papers. The Internet was available, however, the electricity runs off so long in Nepal, 20 hours in winter. We couldn't use PC due to the shortage of electricity.

SAITO: Did you use mails or Facebook?

SHARDA :I don't use them so often. Only once in two weeks. I had to go to the shop called Internet Cyber, which is far from my house and I had to take a bus. I spent 8 Rupee for a bus and used the Internet for an hour with 20 Rupee then came back home. It costs a lot and we can't use so often.

SAITO: How many years ago was it?

SHARDA: About 6 years ago. I use my mobile nowadays, which is Smartphone. Many people go to another countries from Nepal. One family will go to one country for working at Malaysia or Europe etc. Many people get new mobiles after 2 years to send the old ones to Nepal, and one family can use one Smartphone.

ELIF : I was in Okayama till the first grade of primary school. After coming back to Turkey, my father had his old PC at home when I became fifth grade of primary school. I did my homework but I preferred doing it by using books. I started doing homework or searching what I want to know with the Internet from junior high school days. The most interesting thing related to the Internet in Japan is that I live in Ohbaku dorm (I used to live in the dorm as a university student in Turkey), and in Turkey, we had WiFi in our rooms but we have a wired internet, not WiFi in Ohbaku dorm. I don't know how to use it.

LEE: In 1990, my family bought the first computer for our home. My brother was used to play computer games with cassette tape. I remember that it took about 20 mins for loading. In 1995, Windows was introduced and I had experienced mail for the first time using modems. In 2000, ADSL became popular and "PC BANG" (Facility similar to Japan's net café) was booming. Around 2000, online games using computer became very popular with Korean young generation and supported the boom of "PC BANG". At that time, Personal Computer became popular and many families had computers in their home but some only can access to the Internet. After that, the Fiber to the home was spread, which enables us to use the Internet with the high speed connection just like the one in "PC BANG", and the boom of "PC BANG" decreased. Recently, we can use the Internet at restaurants and cafes by WiFi.

SAITO: Have you ever heard of eduroam? Do you know it? Have you used it in your country?

LEE: No, I haven't. Not in Korea.

ELIF: I have used it in the university in Turkey but I didn't know that we can use it in other countries.

SAITO: Did you have any rooms which had many PCs like Open Space Laboratory here?

ELIF: Yes, but we had to pay for printing out.(Charged). In Kyoto University we can print free up to 200 sheets. I am so thankful.

NAGAI: How about IC card? Students' cards are IC cards in Kyoto University. IC cards are used for e-money in Kyoto University CO-OP or for checking the attendance in classes.

LEE: We had one in Korea.

ELIF: In Turkey, they are used in going into the university or cafeteria, not in going into the buildings. (The outsiders can't go into the university campus.)

SAITO: Have you ever heard of PandA or CALL in Educational Assistance System?
DONG: I know because I used to be TA.
SHEN: I know about them but usually I just use KULASIS and PandA.
NAGAI: The system of PandA is close to that of e-learning. We can create classes interactively, So please have teachers around you use it.
everyone: I think I will understand it if my teacher uses it.
SAITO: Have you ever heard of OCW or MOOC?
everyone: Not really.

SAITO: What had surprised you the most in using ICT environment in Kyoto University? ELIF says that she can't use Wireless but Wire in Ohbaku dorm. Anything else?
DONG: The speed of the Internet is very high.
SHEN: I think it's because no one uses P2P software.
SAITO: What do you use the most in ICT in Kyoto University?
LEE: The ICT system in Kyoto University is good environment for students. PC of OSL in Central library is very comfortable because software needed for student is already installed. Also, printing is free up to 200 sheets. I feel searching materials and printing the data is especially convenient. Also, Every PC in Kyoto University protects my own account. Doing homework in University using PC of OSL is way faster than doing it at home.
SHEN: The Wifi connection of eduroam is much more speedy than that of my lab.
DONG: I live in Osaka now. I think it's amazing to be able to search libraries from my home.
SAITO: We can connect remotely. Didn't you have them?
DONG: We couldn't years ago, but now we can access to the website of my home university.

SAITO: Could you tell us something inconvenient with the service of ICT of Kyoto University?
DONG: All the menu guidebook for the Internet is written in Japanese. We Chinese can understand because it includes Chinese Characters but it will be difficult for those from English Speaking Countries. When we try to search libraries, everything is written in Japanese. The website of libraries includes English version, however, the explanation for setting up and how to log in with VPN from home are written only in Japanese.
SAITO: Have you ever had problems with the setting up of PC? For example, Network setting, the setting from your home, and the setting for POP in mails.
ELIF: I couldn't use MIAKO and I didn't know how to use it.
SAITO: You can use KUINS-Air, which enables you to log in with your ECS-ID and the password. Do you use Facebook or the service from Google?
DONG: I can't use Facebook nor Twitter in China. I can't use YouTube as well. I can't use the service of Google and Yahoo stopped their service 2 years ago.
SAITO: So what do you use instead of them?
DONG: Chinese Facebook. I can't use Gmail. Chinese Twitter: Weibo.
SHEN: I can use G-mail in Shanghai.
DONG: I can't get e-mails from Google directly in Beijing. To connect to the service outside China, I can get the service of special VPN, which many people do, although it is illegal.
SAITO: Do you know that P2P is prohibited in Kyoto University?
SHEN: I have used BitTorrent outside the college. (Not in college)
SAITO: BitTorrent is also P2P.
ELIF: Years ago, it was allowed some companies to give my Personal Information to another company while I didn't know. But it's prohibited from this year in Turkey.

DONG: There are many leakages of personal information in China. And I get tons of Spams everyday.

SAITO: About Information morals at the end. On copyright and illegal copy, is there a trend that copying is allowed in China?

SHEN: Even now, Yes.

SAITO: Why is that? Is it because there are no law to prohibit that?

SHEN: Illegal copy is not allowed in University PC or Company PC, however, it is allowed in personal PC because general Chinese think it's cheaper. When I try to copy the books in Kyoto University library, I was told not to do that. But it is allowed in China.

SAITO: I think it's allowed for the purpose of research or academic use.

SHEN: It's not allowed to take a picture for deterioration protection of old documents. But that is allowed in China. When I tried to take a picture of the documents with my mobile in library, I was told not to do that. I tried to take a picture because I wanted to get a page, but I was told not to do that. Almost always we can do it free in China. I prefer reading on paper than to on PC.

SAITO: Any requests for the service in Kyoto University? About the things you think is strange?

SHARDA : I get 2 mails from KULASIS everytime, whose contents are the same. I prefer getting 1 mail if the content is the same.

ELIF: It's inconvenient to go to the South building for reissuance of password in case I forget my password for ECS-ID. I want to have a system for resetting password online.

SHARDA : No PC is available at my home. I have to leave home early to go to my lab and stay there till late at night for the preparation of materials of presentation. I want to get my PC but can't get it because now I don't have enough money to buy PC. Some people had to get their own PC because of the lack of PC at lab. They had to carry a heavy PC everyday while going to lab. I think it's very hard for them especially in case it rains.

SAITO: Time is up, and thank you very much for very interesting talks.

(Our impression: Each country's different situations and foreign student's opinions were revealed in this discussion. We again realized that we must increase English information!)

座談会後の集合写真
(Photo after the talk session)

セキュリティ関連で注意して欲しいこと

認証の話

●ECS-IDでシングル・サインオン

学内の様々なITサービスを利用する際にはあなたが本学のサービスを利用する権利を持っている人であることを確認するためにIDとパスワードによる本人認証を行います。認証に使われるのが一人一人に提供しているECS-IDです（教職員はSPS-IDという別体系のIDを使います）。このID一つでメールや図書館のサービス（KULINE）など、様々なサービスをシングル・サインオンで利用可能です。

●パスワードは大切に（PWの作り方と管理）

このシングル・サインオンのセキュリティを守るのは、あなたのパスワードです。パスワードは部屋や家の鍵のようなもの。しっかりと正しい作り方で強いパスワードを作り、それを誰にも知られないように管理してください。強いパスワードを作るのはそれほど難しいことではありません。様々な文字（アルファベットの大文字、小文字、数字、記号など）を組み合わせ、できるだけ長いもの（8文字以上）を作ってください。簡単な辞書にも載っているような単語の使用はやめましょう。また、作り方を覚えておけば、忘れても直ぐに作り出せるので安心です。

セキュリティの話

●ネットワーク・セキュリティの監視

京都大学全体のネットワークであるKUINSには、その出入り口にIDS（Intrusion Detection System）と呼ばれるセキュリティ監視装置が設置されていて、全ての通信を24時間365日監視しています。怪しい通信を発見すると、学内の通信先に安全確認を行い日々インターネットから到来する様々なアタックに対処しています。2014年度は300件あまりと、ほぼ1日に1回の頻度で安全確認を行っているほど沢山のアタックにKUINSはさらされています。

●大学全体のセキュリティは一人一人が守る

上記の監視をしていれば、KUINSは安全で安心なのかというとそうではありません。
インターネットはとても便利な道具ですが、セキュリティについては利用者である皆さん一人一人が注意していないと、思わぬ事故（セキュリティ・インシデント）に巻き込まれる可能性があります。また、一人の不注意から大学全体が危機的状況に容易に陥ってしまう危険性も高いです。従って、大学のセキュリティを守るためには、一人一人の心構えが何よりも大切です。特に、メールの添付ファイルやWebでアクセスするサイトにはマルウェアが隠されている可能性が必ずあります。それに引っ掛からないよう特にメールとWebは用心深く使いましょう。
また、ウィルス対策ソフトやOS、アプリケーションなどのアップデートは欠かさず行ってください。

●セキュリティ・ポリシーがあなたを守る

大学では、ネットワークのセキュリティに関して、詳細なセキュリティ・ポリシーを定めています。このポリシーは、「基本方針・対策規程(policy)」「対策基準(standard)」「実施手順書(procedure)」という3階層で定められていて下記のURLから参照することができます（英語版もあります）。

http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/use/regulation.html

ここではその詳細は説明しませんが、一つだけ大事なことをお伝えしておきます。これらのポリシーは、ややもすると自由な行動を制限する面倒な規則と捉えられ勝ちですが、それは間違った認識です。これらの規則を皆さんが守って行動してくださればセキュリティ・インシデントに巻き込まれる可能性が低くなります。また、万が一これらの規則を守っていたにも関わらず、セキュリティ・インシデントに巻き込まれた場合には、このポリシーを定めて皆さんに遵守をお願いしている京都大学に責任があるということになります。ポリシーの中には、パスワードの

ガイドラインとか、無線LANアクセスポイントを設置する際のガイドラインなども含まれています。ポリシーを毛嫌いすることなく、一度読んでそのポリシーに則った行動をするように心がけてください。

セキュリティに関する報告や相談は、先ずは各学部や研究科のセキュリティ連絡窓口または情報環境機構のセキュリティ対策掛までお願いします（お配りしてあるミニガイドもご活用ください）。

●P2Pソフトウェアは京都大学では使用禁止

留学生などの中には、「京都大学ではどうしてP2Pのソフトウェアの使用が禁止なの？」と思われた方も多いかもしれません。これには理由があります。もうだいぶ前になりますが、WinnyなどのP2Pソフトウェアの利用が日本でも流行ったことがありました。その際に一番問題になったのは、これらの「不特定多数でファイルを共有する」サービスが音楽や映像の違法コピーの拡散を助長する役割を果たしたことです。これらの動作に学生が巻き込まれると日本では、刑事罰に当たる罪となり、場合によってはせっかく日本に留学したのに「国外へ強制退去」などと言う悲しい事態に至ることもあり得ます。また、P2Pで共有されるファイルには悪質なウィルスが紛れ込んでいることもあります。これらの理由から、研究目的等を除きファイル自動公衆送信機能（不特定多数でファイルを共有する機能）をもつP2PソフトウェアのKUINSでの使用は禁止しています。具体的に禁止の対象となるソフトウェアは、ビットトレント（BitTorrent）、ウィニー（Winny）、迅雷（Xunlei）、イードンキー（Edonkey）、シェアー（Share）、ウィンエムエックス（WinMX）などです。

情報倫理の話

●ソフトウェアの違法コピーは駄目！

これも言うまでもないことですが、ライセンスに則りきちんと対価を支払って購入していない不法コピーや違法コピーのソフトウェアをＰＣやモバイル端末で使うのは禁止されています。この行為により損害賠償を請求されたり、場合によっては懲役や罰金などの刑事罰を受ける可能性もあります。

●論文盗作も駄目！

数年前から、日本でも論文盗作のニュースが目立つようになりました。学問を行う上で、他人の業績を盗んで自分の成果とするという卑劣極まりない行為は倫理的に許されるものではありません。京都大学から、そのような学生や教職員が出たというようなことがあれば、大学全体の信頼が損われます。常日頃から、たとえ簡単な宿題のレポートであっても自分で考え自分で作文し、引用したものには出典を明記するという当たり前のことを実践するようにしてください。

●SNSの利用は注意深く、節度を持って！

Facebook、Twitter、LINEなどのいわゆるSNSは、今では日々の生活に必要不可欠なコミュニケーションの手段となっています。しかし、個人的に親しい人との間のパーソナルなやりとりの手段だと高をくくって気軽に投稿していると、思わぬ事故に見舞われる可能性もあります。

特に、他人を誹謗中傷したり、個人情報が漏洩する可能性のある写真の投稿などには注意が必要です。場合によっては、名誉毀損や侮辱罪などの罪に問われて、罰金や科料などの刑事罰を受けることもあるので要注意です。

[English version] Cautions concerning security

Authentication

●Single Sign-on with ECS-ID

In using various IT services on-campus, it is necessary to authenticate yourself with ID and Password to make sure that you have a right to use the services in Kyoto University.
ECS-ID is provided to each person to use the services (The Faculty and Staff use SPS-ID.). With this ID, you can use the various services such as mail, the service of library (KULINE) etc. with Single sign-on.

●Please take good care of your password (About creating and managing PW)

It's your password that protects the security of Single sign-on. Password is like your room or house key. Please create your password in the correct way and manage not to be known by others.
It's not so difficult to create a powerful password. You can combine various characters (capital letters, small letters, numbers, symbols etc.) and create one as long as possible (more than 8 characters). Please refrain from using a simple word written in a dictionary. If you remember how to create it, you can create it again just in case you forget.

Security

● Monitoring the network security

KUINS, the network of Kyoto University, has the security monitoring device called IDS (Intrusion Detection System) in its exit and entrance. It is monitoring all communications for 24 hours, 365 days. In detecting suspicious communications, we confirm the security of the transmission destination and deal with the various attacks coming from the Internet every day. KUINS confirmed once a day in 2014(more than 300 attacks).

●All-university security

It doesn't mean that KUINS is necessarily safe with the above monitoring.
The Internet is very convenient tool, however, there might be the case that users may be involved in an unexpected accident (security incident) without cautions of each user. Also, there might be the case that all-university will be in the dangerous situation easily due to one user's carelessness. Therefore, it's the most important for each user to be careful for the protection of university security. In particular, the malware will be hidden in the attached file of mails or within the website you access. Please use the mail and Web carefully in particular.
Also, please update anti-virus software, OS, and applications etc. regularly.

●Security policy protects you

The detailed security policy is fixed concerning the network security of our University. This policy consists of 3 layers: policy, standard and procedure, which can be referred from the following URL (We have English version).
http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/en/services/ismo/use/regulation.html
Here we don't explain its details but we want to tell you one important matter. This policy might be regarded as the annoying regulations which restrict your free actions, however, it is the wrong view. There will be less chances to be involved in the security incident if each user follows these regulations. In case users were to be involved with the security incident even though they followed these regulations, it is the responsibility of Kyoto University which asks for the compliance to this policy. The policy includes the guideline of password or the guideline in setting Wireless LAN access points. We will be glad if each user tries their action following the policy without feeling reluctant.
Please contact the security contact counter in your faculty or graduate course for the report or counseling on security. Or please contact Security Management office in IIMC. (Please refer to the quick guidebook as well.)

●It's not allowed to use P2P software in Kyoto University

Many international students might wonder why the usage of P2P software is forbidden. There is a reason. Years ago P2P software such as Winny was popular in Japan. The problem was that the service to share the file with group of people played a role of diffusion of the illegal copy of music and images. In Japan there might be the case that those who involved in these incidents deserve criminal penalty and they may be ordered deportation to outside of Japan making it impossible to study in Japan. Also, the files shared in P2P include vicious virus and there are high risk of being involved in the security incident or being an attacker. For these reasons, we prohibit the usage of P2P software with automatic transmitting function (the function to share the files with anonymous people) in KUINS except for special research purposes. The software prohibited to use are BitTorrent, Winny, Xunlei, Edonkey, Share and WinMX etc.

Information ethics

●Don’t use: illegal copy of software!

Needless to say, please stop using illegal copy of software which could be obtained without paying proper license fee in your PC or mobile terminals. In detecting this action, you might be claimed for damages or have criminal penalty such as fine and penal servitude.

●No plagiarizing thesis!

The news of plagiarizing thesis is conspicuous in Japan from several years ago. An extremely despicable action such as stealing other's achievement for your accomplishment is unacceptable ethically in studying. It will be a shame if there is such a student or Faculty and Staff in Kyoto University. Please think and compose the sentences even though it is the simple report given as homework and if you were to quote something from the book, please give its attribution as a matter of fact.

●Please use SNS with modesty!

Facebook, Twitter, and LINE (so called SNS) are the essential communication tool for our daily life nowadays. But there might be the case of having unexpected accident if you post your feeling freely thinking that it is the tool for the personal communication with close friends.

In particular, please be cautious in posting photo which might cause the leakage of personal information or name calling. There might be the case that you will have criminal penalty such as fine being accuse of defamation or contempt. Please be cautious.

My impression of KYOTO UNIVERSITY's ICT

By Satyam Singh (Chairman of foreign student committee, Kyoto University CO-OP)

To support International students, one of the integral parts of the Kyoto University is the Internet Environment that is Kyoto University ICT. Students can use the ICT for a whole lot of purposes from selecting courses for the semester to managing library records, all from the comfort of their homes (using PPTP service: editorial comment). From the point of view of a foreign student studying in Kyoto University, this article will introduce you some of the most beneficial aspects of the ICT, as well as some features which needs improvements, to be more user friendly to the students from abroad.

To begin with let's introduce some major features of the Kyoto University ICT which a normal student uses from day to day life. They are as follows:

Kyoto University Official Website, Student Portal (KULASIS, PandA, etc.), Kyoto University Open Course Ware (OCW), Kyoto University certificate vending machines, Kyoto University CO-OP Website

Let us now elaborate on each topic. Firstly, **the Kyoto University (Kyodai) official website**. This page under the URL of http://www.kyoto-u.ac.jp/en gives the first hand information of almost all the activities that takes place at Kyodai. From club events, official meets, to new research developments, all of the information is available on the website. Recently the website has developed a lot and provides lots of information in 4 different languages that is Japanese, Chinese, Korean and English. But unfortunately, switching the language settings from Japanese to English results into loss of some information which is available in Japanese, but not in English. Even some basic functions like sharing on Facebook and Twitter disappears when you change the language to English. Some other important information like scholarship dates and other information related to it are not updated on the Kyodai English official website. The university website is also very helpful for finding jobs and internships information in Japanese. But in English it's not the same. Many overseas students find it difficult to look up for the internships in English. Even the internship information which require English as their eligibility are often times written only in Japanese. Most, if not all, of the information should be provided in English, because there are students who are fluent at speaking and listening Japanese but not so good at reading and writing.

The common student portal, easily the most used part of the Kyodai ICT by every student, irrespective of Japanese or foreigner, everyone uses this portal to access its most famous website called KULASIS. Before entering into KULASIS, let us list some websites accessible from the portal. They are: KULASIS, MyKULINE, KUMOI, Security e-learning, PandA and Questionnaire system.

Firstly, **KULASIS** is the website from which students can see the syllabus of the subjects they are interested into, they can register, unregister the subjects directly from the page. It also has sections for internship details, important information regarding the classes, special classes and other details like typhoon warnings etc. All the necessary information required for routine classes are available first hand on the KULASIS website. One of the better systems accessible from KULASIS is shadowing system which enables you to learn language in an efficient way. Except for the links which direct to the official website of Kyoto University, most part of the KULASIS site is translatable into English enabling the overseas students a smooth online life.

MyKULINE is also one of the better works of Kyodai's ICT from where you can manage your library records from the comfort of your home, you can search for the books required, reserve it, if it is not available for issuing at that

moment. There are many e-books too which can be downloaded from the Internet, after filling up an application form. The English language facility is also satisfactory on this site.

KUMOI is the mail service provided by the university to all students (KUMail for teachers and staff). This mail service is very useful as it offers personalized and very efficient way of emailing your colleagues and as this mail service is based on Microsoft Outlook you can easily synchronize this with your computer.

The Security e-learning feature is to teach the users some basic manners and rules of using the Internet through some quizzes and lessons both in English and Japanese.

The PandA and the Kyoto University Open Course Ware (OCW) are very important features of the ICT as it plays a very special role in the student life by providing support material for the studies at the University. In PandA we get the resources related to our subjects only, but on the Open Course Ware we can get all the resources of all the subjects which are made public. But the OCW does not have much of the works in English, so as an overseas student it is very difficult to understand. In the videos at least English subtitles are necessary for the foreign students.

The certificate vending machines are also very useful to get various certificates like transcript, JR discount certificates etc.

All these services and the Internet can be accessed for free by everyone who is studying or teaching at Kyoto University by using the KUINS-Air and the MIAKO-NET WiFi services provided by the university (eduroam is also available: editorial comment). KUINS-Air is easily accessible by all the devices but the MIAKO-NET services require special configurations of the PPTP server. The configuration manual for the MIAKO-NET is available on the Internet in languages like English and Japanese. The media center in the south campus can also be utilized to configure the services. Both of the WiFi are accessible at most of the places of the university. These things comprise the ICT. Like everything else these also have some shortcomings, but it is also improving every other day to support every student's life in the prestigious Kyoto University.

[和訳] 京都大学の情報環境についての印象

サティヤム・シン（京大生協　留学生委員会委員長）

京都大学のICT環境は留学生支援としても重要なものであり、特にネットワークは（編集注：PPTPサービスを使うことにより）家からも使えてとても便利です。京都大学で学ぶ外国人学生の立場から、本稿ではICTの有益な側面や改善要望を紹介します。

キャンパスライフで学生が日々使うものとして次のようなものがあります。

京都大学公式ウェブサイト、全学生共通ポータル（KULASIS,PandAなど）、京都大学オープンコースウェア（OCW）、京都大学証明書発行機

それぞれについて説明していきます。

京都大学公式サイト（URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/en)には、京都大学で起こっているほとんどすべての活動の情報が掲載されています。クラブのイベントや大学の公式の会議から新しい研究情報までこのウェブサイトですべての情報が閲覧できます。 最近、このウェブサイトは日本語、中国語、韓国語、英語と４つの言語でたくさんの情報が提供されています。しかし残念なことに、言語設定を日本語から英語にすると、日本語では閲覧できた情報が英語では閲覧できないというものもあります。FacebookやTwitterのような基本的な機能でさえも、言語設定を英語に変えると消えてしまいます。他にも奨学金の日程のような重要な情報やそれに関連するような他の情報もアップデートされていません。大学ウェブサイトは就職活動やインターンシップの情報を日本語で探すにはとても役に立ちますが、英語ではとてもそうはいきません。多くの外国人学生は英語でインターンシップを探すことが難しいことに気づいています。資格として英語を必要とするインターンシップの情報でさえもしばしば日本語でのみ書かれています。日本語の聞き取りやスピーキングが流暢であるとしても、読み書きするのはそれほどできない学生もいるので、より多くの情報を英語で提供してほしいです。

全学生共通ポータルは、日本人学生か外国人学生かに関係なく、KULASISという最も有名なウェブサイトにアクセスするために使われています。 KULASISを含め全学生共通ポータルからアクセスできるものには次のものがあります。

KULASIS（教務情報システム）、MyKULINE（図書館機構オンラインサービス）、KUMOI（学生用メール）、情報セキュリティ e-learning、PandA（学習支援システム）、授業アンケートシステム。

KULASISでは、学生の興味がある科目のシラバスを見ることができ、科目の登録もしくは登録解除をこのページから行うようになっています。また、インターンシップの詳細や、授業に関する重要な情報、特別授業、台風警報などといった詳細情報の区分もあります。正規の授業で必要なすべての情報はこのKULASISウェブサイトで直接閲覧できます。KULASISからアクセスできるより良いシステムの1つとして効率的に言語を学べるシャドーイングシステムというものもあります。京都大学公式サイトに直結したリンクを除いて、KULASISサイトのたいていの部分では英語翻訳があるので、外国人学生がスムーズに使えるようになっています。

MyKULINE（附属図書館）は、自宅にいながらにして図書館利用記録を管理したり、必要な本を探したり、その時借り出されている本については予約したりといった便利な機能があり、京都大学のICTの中でも良いものの一つです。申込書に記入すれば、インターネットでダウンロードできる電子書籍もたくさんあります。このサイトの英語版は満足できるものとなっています。

KUMOIは、京都大学の全学メールのうち学生全員に提供されているメールサービスです。（教職員には、KUMailというメールサービスが提供されています）。

このメールサービスは効率的な方法で同僚にメールを送ることができるので、とても役に立っています。また、このメールサービスはMicrosoft Outlookを元にしているため、コンピュータと容易に同期させることができます。

セキュリティe-learningでは、日本語と英語で、インターネット使用に関する基本的なルールとマナーをWebで学べるようになっています。

PandAと京都大学オープンコースウェアは、大学での勉学における資料を提供することで学生生活における特別な役割を果たすということで、とても重要なものです。 PandAは自分の科目に関する資料が入手できるのに対し、オープンコースウェアでは全ての科目の全ての資料のうちオープンにされたものが入手できます。しかし、オープンコースウェアは英語の資料は充実していないので、外国人学生にはなかなか理解できません。少なくとも外国人学生用にビデオには英語の字幕が必要です。

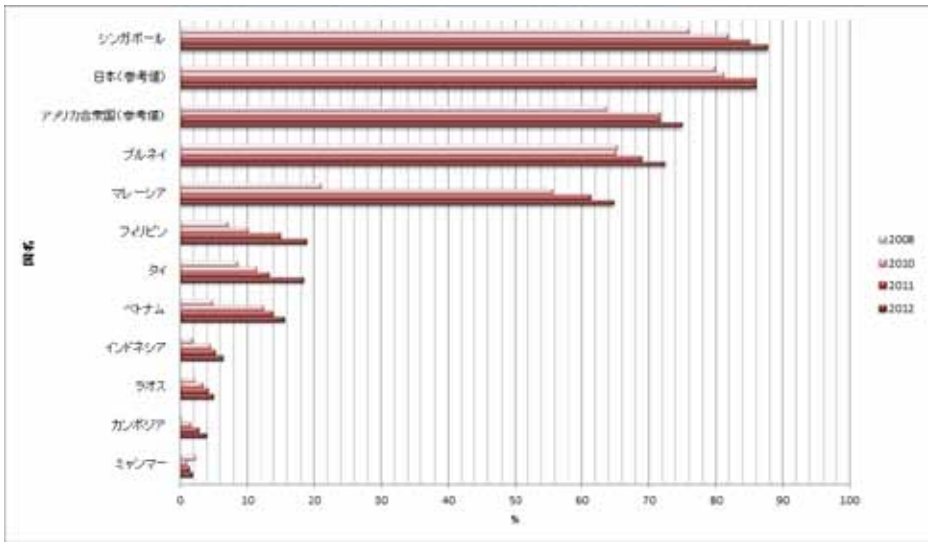
証明書発行機は、JR学割や成績証明書などの色々な証明書を入手するのにとても役に立ちます。

これらのサービスとインターネットは、京都大学の構成員であれば、KUINS-AirやみあこネットなどのWi-Fiサービスを使って利用できます（編集注：eduroamも使えます）。
KUINS-Airは、全ての機器で簡単にアクセスできますが、みあこネットはPPTP設定をする必要があります。
PPTPの設定マニュアルは英語および日本語でインターネットからみることができます。また、吉田南構内にある学術情報メディアセンターで設定サービスを受けることもできます。
KUINS-Airもみあこネットも大学内のほとんどの場所でアクセスできるようになっています。
以上説明したものが京都大学のICTを構成しています。
欠点もありますが、一流大学である京都大学でのみなさんの学生生活をサポートするために日々改善されています。

東南アジアのネットカフェ事情 —— シンガポールを例として

平田 知久（群馬大学社会情報学部講師/元日本学術振興会特別研究員）

東南アジアのインターネット環境を考える上で欠かせない事実、それは世界的なIT先進国／後進国が混在することである。以下のグラフは、東南アジアのインターネット家庭普及率の推移を示したものである（出典は、International Telecommunication Unionが発行する『Mesuring the Infromation Society』の2010（平成22）年から2013（平成25）年のデータによる）。



Graph1: 東南アジアのインターネット家庭普及率

参考値として、日本とアメリカ合衆国のインターネット家庭普及率も含めたが、この二国を凌ぐシンガポール（87.7%）がある一方、フィリピン・タイ・ベトナムなど、家庭普及率20%付近の国々、そしてインドネシア・ラオス・カンボジア・ミャンマーといった10%に満たない国々が存在するのが、東南アジアのインターネット環境の「現在」である。

ただし、家庭普及率20%以下の国々でも、人々はインターネットに触れることができないわけではない。近年は、比較的安価なスマートフォンとプリペイドSIMカードの普及によって、東南アジアのIT環境は刻々と変化しつつあるが、自宅にインターネット環境が整っていない人々にとってのインターネット・インフラストラクチャーの機能を果たしてきたのは、インターネットカフェ（ネットカフェ）である。

東南アジアのネットカフェの形態や利用様態は多様だ。だが、東南アジアのネットカフェが「インターネット環境を十全なかたちでは持たない人々」の集う場所であるがゆえに、そこに各国固有の社会問題の「現在」が反映されるということは共通している。そして、そのような人々の多くは国内外からの移民労働者であり、各国の首都圏でネットカフェが集中するのも、移民労働者が集まる地区である。

その一例として、シンガポールでネットカフェが集中するゲイランという地区に注目してみよう。私が実施したフィールド調査によれば、シンガポールのネットカフェ集中地区は、リトル・インディア（インド人街）、ラッキープラザ（フィリピン人／インドネシア人家政婦が集まるショッピングモール）、そしてゲイラン（中国人街）の三つがある。

ゲイランは「シンガポールの歓楽街」という顔も持つが、あるネットカフェの店員が「ここはリアル・チャイナタウンだ」と話すほど、中華系移民の集まる場所となっている。実際、シンガポールの公用語は英語であるにもかかわらず、ゲイランのネットカフェの店員は、そのほとんどが英語を解さず、店舗の前には「欢迎光临（いらっしゃいませ）」「网吧（ネットカフェ）」という看板や電飾が掲げられ、店内のパソコンのOSはWindowsの簡体字ヴァージョンのみである。

photo1: ゲイランのネットカフェ地図

そのゲイランのネットカフェで、私が偶然相席になったある中国人の男性は、私が店員に案内されて席につくまで、二人がけのソファに寝そべっており、違法にアップロードされた中国の映画を楽しんでいた。

私が席につこうとすると、彼は申し訳なさそうに椅子から足を下ろし、煙草に火を付けた。私が英語で話しかけると彼は少し困った顔をしたため、私は片言の中国語で「我是日本人（私は日本人なんです）」と言い、持っていた調査ノートにその漢字を書き付けると、彼は嬉しそうに私のペンを手にとって、上海から左官職人として出稼ぎに来たこと、週に数回ネットカフェに来て映画やドラマを観て楽しむことを、私に筆談で教えてくれた。その上で、彼は再び煙草に火をつけ、私にも一本勧めてくれた。

ゲイランのネットカフェにまつわる以上の回想は、様々レベルの「法-外」な状態とそのような状態を生み出している社会の問題を指し示すものだ。

例えば、違法にアップロードされた動画を見ていた彼は、なぜシンガポールの映画館に行くことができないのか。その答えは単純で、彼にとってシネマ・コンプレックス化された映画館の入場料は、彼の収入に見合うものではないからだ。

このような状況は、彼の出身である中国本土でも同じである。例えば北京では、建築／改装工事現場の周辺（北京の郊外）にネットカフェが集中し、そのような工事現場で働く出稼ぎ労働者たちが、映画やゲームといった娯楽を求めてネットカフェに集っている。違法にアップロードされる動画の問題は、それゆえ様々な国の社会構造や政策の問題でもある。

photo2: ゲイランのネットカフェの外壁広告

あるいは、シンガポールでは冷房の効いた公共施設の禁煙が法的に

定められている。それゆえ上海出身の左官職人は厳密には法を犯していることになるのであるが（ただし、このネットカフェで喫煙をしていたのは彼だけではなく、彼が喫煙していることに異を唱える人は、店員も含めて誰一人いなかった）、その彼が作っているものには、移民労働者が居住することができないインターネット環境が敷設された公共住宅も含まれ、シンガポールでは、このような公共住宅の周辺でネットカフェを営業することは禁止されている。

また、彼と同じような条件でシンガポールの建設現場に従事するインド系の移民労働者たちは、ネットカフェでより給与の高い求人広告に目を通し、ワーキングビザの更新をするために、リトル・インディアのネットカフェに集まる。

photo 3: ラッキープラザのネットカフェの様子

さらに、彼ら／彼女らが作ったシンガポールの公共住宅で、シンガポール人の家庭生活を支えるのは、フィリピン人／インドネシア人家政婦である。彼女たちの多くは住み込みで働いているという点で、確かに公共住宅に「居住」はできているが、それはあくまでも「職場」であり、何より彼女たちにはシンガポールの労働法が適用されない（シンガポール政府の見解は、家政婦とは、雇用主である家族との間の個人的な契約関係を結んだ者である）。そして、このような家政婦たちが、休日に自国に残してきた家族や友人と、facebookやskype、あるいはインスタントメッセンジャーなどを用いて会話を楽しむ場所、それがラッキープラザのネットカフェなのである。

このように見れば、シンガポールのネットカフェは、シンガポールの国是である「民族統合」や「多民族共生」の課題を浮き彫りにする場所だと言えるだろう。本稿ではシンガポールの一例に留めるが、東南アジアのネットカフェは、東南アジア各国のインターネットネット事情と社会事情の「現在」が重なる場所であり、このような認識は、例えば「ネットカフェ難民問題」を抱える日本のインターネット事情と社会事情の「現在」を再考する足場ともなるのである。

[English version]
Internet Cafe affairs in South-East Asia—Examples in Singapore

Tomohisa HIRATA (Faculty of Social and Information Studies, Gunma University/Fomer JSPS Research Fellow)

The fact essential in consideration of the Internet environment in South-East Asia is that there are IT developed and developing countries mixed in this area. The following graph shows the transition of the proportion of households with the Internet in South-East Asia. (References: Measuring the Information Society 2010, 2011, 2012, 2013 published by International Telecommunication Union).[Graph 1]

The percentages of households with the Internet in Japan and that in U.S. are included as a reference, however, it is the current situation of the Internet environment in South-East Asia that there are some countries whose diffusion rate exceed or are comparable to that of these two countries such as Singapore (87.7%), while other countries having that of around 20% (Thailand, Vietnam, and the Philippines), having that of only less than 10% (Indonesia, Laos, Cambodia, Myanmar).

It doesn't mean that people can't use the Internet even in the latter countries. IT environment in South-East Asia changes gradually nowadays with the spread of pre-paid SIM cards and reasonable smartphones. However, it's the

Internet cafe that has played a role of the Internet infrastructure for those who don't have enough money to have or maintain the Internet access at home.
There are various configuration of Internet cafe and will be used in the various way in South-East Asia. The Internet cafe at South-East Asia is the place for those technologically "have-nots," which causes the reflection of the current social problems in each country. In addition, most of those people are immigrant workers from domestic or outside and the districts where they gather in the capital of each country have lots of Internet cafe.
Let's take Geylang district in Singapore where there are a lot of Internet cafes as an example. According to my field survey, the concentrated areas of Internet cafes in Singapore are Little India (Indian street), Lucky Plaza (a shopping mall where Filipina or Indonesian domestic workers gather in their holiday), and Geylang (Chinese street).
[Photo 1]

Geylang has features of entertainment (red-light) district in Singapore and it's also the place for Chinese immigrants, just as a shop manager of an Internet cafe told me "it is the real China town." Despite the official language in Singapore is English, most of the staffs of Internet cafes in Geylang don't speak it. In front of the shops, there are signboards or illuminations saying "欢迎光临 (Welcome)," "网吧 (Internet Cafe)" and all of the personal computers in the shops in Geylang are installed Windows Simplified Chinese version as the operating system.
[Photo 2]

I happened to share a sofa with a Chinese man in the Internet cafe in Geylang, who laid down the couch for two people enjoying the Chinese movie uploaded illegally until I was brought to it by a staff.
When I tried to be seated, he set his feet down from the chair feeling sorry and started smoking. When I spoke to him in English, he looked being at a loss and I spoke rudimentary Chinese saying "我是日本人 (I'm Japanese)" and wrote down its Chinese characters in my notebook for field survey. Then he picked my pen happily and wrote down that he was a migrant worker from Shanghai as a plasterer and that enjoyed watching movie and drama in Internet-cafes several times a week. After that he started smoking again giving me his cigarette.
The above reminiscence of Internet cafe in Geylang shows the extralegal situations in various level and social problems which create them.
For example, why can't he go to the cinema in Singapore instead of watching the movie illegally uploaded? The answer is simple. He can't afford paying the entry fee of the cinema with his income.
The condition is the same in mainland China where he is from. For example in Beijing, the construction sites or renovation spots (in the suburb of it) have many Internet cafes and this kind of workers gather in Internet cafes seeking for the entertainment such as movies or games etc. That's why the problems of the movie uploaded illegally are also those of social structure and policy of various countries.
On the other hand, in Singapore, it's not allowed legally to smoke in the public facilities with the air conditioner. It means that the plasterer from Shanghai offends against the law technically (although, it was not only him who smoked in the Internet cafe and nobody, including the staffs, complained him). However, what he usually creates includes public housing with the Internet access not for immigrant workers but for Singaporean and opening Internet cafes for the entertainment around the public housing is strictly prohibited by the ordinance enacted by Singaporean government.
Also, the Indian immigrant workers who works at the construction site in Singapore in the same criteria with him gather the Internet cafes in Little India to browse the want ads of higher salary and to renew the working Visas.
Furthermore, it's the Filipina or Indonesian domestic workers that support the ordinary Singaporean family life of public housing which immigrant workers created. Most of them work living there and it means that they can inhabit the public housing for sure but it is thoroughly "workplace" and the Singaporean labor law won't be adapted to them (in the viewpoint of Singaporean government, domestic workers mean the person who had private contract

with family which is employer). And the Internet cafes at Lucky Plaza are the place for them to enjoy conversation with friends and families in their home country using facebook, skype, and instant messenger etc. during their break. [Photo 3]

So, the Internet cafe in Singapore can be mentioned as the place to reveal the theme for "Ethnic Integration" or "Multicultural Symbiosis," which is the national policy of Singapore. Here I took it as an example in Singapore and the Internet cafe in South-East Asia is the place which plainly reflects the "current situation" of the Internet and social affairs in each county in South-East Asia. This awareness will set the stage to rethink about the "current situation" of Japanese Internet and social affairs which has the problem of "Net Cafe Nanmin (refugee)."

Kyoto University – University of California, Davis Staff Internship Exchange Program

Jodi Barnhill

This summer I visited Kyoto University for one month, and it was one of the most wonderful and empowering experiences. By way of background, I am a database and immigration specialist at University of California, Davis' (UCD) office of Global Affairs. I work in the Services for International Students and Scholars (SISS) Division. We welcome and assist inbound international students and researchers with obtaining and maintaining their legal immigration status, as well as adjusting to American culture. For the month of July, I worked at Kyoto University's (KU) International Affairs Division (IAD) as a staff intern through a unique exchange program called the Kyoto University – UC Davis Staff Internship Exchange Program. This program began in 2006 and has allowed staff to learn from one another and share ideas about international education.
During my one month stay, I had an opportunity to meet with staff providing services to inbound and outbound students and researchers, as well as a variety of administrative staff responsible for internationalizing KU and others supporting campus infrastructure. I am writing about my impressions of KU and its "Double by 2020" plan. In addition, I would be remiss if I did not provide some comments about my stay at Shugakuin, language barriers, and my Gion Matsuri experience. Having spent only one month at KU, I am by no means an expert on KU; therefore, I find it necessary to quote Michel de Montaigne: "All I say is by way of discourse, and nothing by way of advice. I should not speak so boldly if it were my due to be believed."

In 2013, both KU and UCD independently initiated 2020 plans related to internationalizing their respective campuses. At both universities, the impetus for creating these plans was financial. UCD, as well as many other schools in the United States, made the decision to dramatically increase the number of international undergraduates in response to a decade or more of dwindling government funding. Beginning in 2009, the Japanese government decided its campuses should focus more on internationalization in order to remain globally competitive. In response, MEXT created Global 30 and last year it replaced this program with Super Global Universities (SGU). KU's "Double by 2020" plan was in response to Global 30 and is now being adjusted to accommodate the government's SGU plan, as well as the vision of a new president, Juichi Yamagiwa, at KU. I am impressed with the vision of Global 30 and SGU. These programs will certainly have a long-term effect to strengthen the global competitiveness of Japanese students, as well as the English-speaking students who opt to participate. Having said

this, the reality I found is that, despite everyone's best efforts, integrating English-only programs and recruiting more English speaking students will take many years and additional investment in staffing.

From my perspective, there are some missing ingredients in the funding recipe and implementation of services. First, maintaining housing for international students and researchers is a job for staff specializing in housing. It does not seem sustainable to have Office of International Services (OIS) staff managing university and private housing for internationals. Second, the campus needs postdocs, graduate research assistants and technicians in laboratories. This change would benefit not only the faculty, but all of the students and researchers as well. Third, KU might benefit, if this idea is not already in place, from creating dedicated intercultural programming staff. It is possible that the International Center has already addressed this need. If not, KU would be investing wisely in intercultural programming staff because they could streamline all activities associated with welcoming internationals, facilitate mechanisms to bring together domestic and international students and create an infrastructure for student led programming and events. At UCD, we find that one of the most difficult parts of internationalizing campus is finding ways to get American and international students to interact with one another. One of the most effective programs we have is our Global Ambassador program where domestic and international students act as mentors for incoming international students. In order for KU's Japanese students to benefit from the presence of English speaking students, KU will need to find a way to motivate Japanese and international students to build relationships with one another. If money is not available for needed staffing, then, perhaps KU could be allowed more flexibility from the Japanese government so that it can diversify its revenue sources to find needed funding. Also, it is possible that increases may be needed in housing and tuition costs, as well as other services provided.

From the perspective of a short-term international visitor, I found the services provided by KU staff to be exceptional. At KU, and for many of my adventures, I had someone with me who could speak English for official business, so it is hard for me to know my fate in Kyoto if I was left to my own devices! Also, I had someone from International Affairs Division assisting me with moving in to Shugakuin, buying groceries for the first time, learning how to take the train and becoming acquainted with Kyoto and KU. Shugakuin is a great place for an international person new to Kyoto and KU. I found the house manager Michiko-san to be helpful and kind. I think the pantry at Shugakuin is evidence of the care that has been taken to help new people get started at KU. I loved the lounge, and the welcome event in July for Shugakuin residents was amazing! The food, conversation and entertainment were wonderful. I was allowed to provide entertainment, and so I had great fun being a fortune teller.

About the services provided, I can state that the international students and researchers I met at Shugakuin appeared to be happy and adjusting well. In addition, all of the staff serving internationals were professional, knowledgeable and had amazing customer service and communication skills. From meetings with staff from OIS, International Education and Student Mobility Division (IESMD) and International Center, it appears that the services provided at KU are very similar to those provided at UCD. I did notice some differences. One striking difference was the lack of an online system that would allow OIS to submit requests for immigration documents to the Japanese government. I think this is likely the same at all universities in Japan. A second difference is that UCD has many more student employees and student run campus services. At my office, we have three student workers who work at our front desk and assist with basic tasks. I did not notice any student workers in the offices at KU. Another difference is that there are more temporary and contractual workers than permanent staff. Finally, the computer network infrastructure and information technology support at KU is much more sophisticated and reliable than what I have experienced at UCD. Obviously, there is more money invested in the technological infrastructure at KU, and this makes everyone's work life much more enjoyable as well as efficient.

About the language barrier, I will use the Japanese word: "nante kotta (Oh my God!)" If I did not have the generous assistance of International Affairs Division staff, clearly my lack of Japanese would have limited my ability to function. It is difficult for me to imagine studying or working full-time while trying to learn Japanese. To me, learning Japanese is something that I would spend a couple of years studying in preparation for studying or working in Japan. As far as overcoming the language barrier, I think that an American or Japanese has to have a huge incentive or be forced into a full language immersion experience in order to break this barrier. Due to the difficulty level and time needed to learn Japanese for a native English speaker or English for a native Japanese speaker, I think that the financial incentives created by the Japanese government are likely necessary to "force" Japanese universities to find ways to get more English speaking internationals to attend Japanese universities and to encourage its own students to learn English by studying abroad or by making American friends at their home universities. As for the Americans, I think that once they realize the incredible opportunities available in Japan and that they can pursue a degree without mastering Japanese, they will begin to pursue degrees at KU or another SGU in greater numbers. As for the Japanese students, they are the ones that have the hardest pill to swallow as they need to master English and cannot pursue a Japanese only curriculum in the United States while leisurely learning English.

Last, but not least, I was lucky enough to be in Kyoto during the month of July to enjoy Gion Matsuri festivities. My favorite memories of Gion Matsuri are the time I spent quietly walking and witnessing or participating in long held traditions. Many of these quiet moments occurred when I walked along the Kamo River or sat at a shrine or temple early in the morning in anticipation of attending a Gion Matsuri event. For Tanabata festival, I enjoyed writing my wish on a paper and placing it on a special bamboo tree. I will always remember when I walked amongst the crowded streets to see the floats lit up for the first time during Yoiyoiyama and the day of the grand parade known as Yamaboko Junko. I also enjoyed other festivals such as Mitarashi Matsuri at Shimogamo shrine. Gion Matsuri is probably the most amazing festival I will ever see in my life, and I am thankful to all of the staff at Kyoto University who helped me find ways to participate. Overall, my visit reinforced the mantra that "life is not a dress rehearsal". I would have never have felt well enough prepared to participate in this exchange. So, when I left for Kyoto, I had to settle for being "good enough." This settling allowed me to "be and become" something more wonderful. I will be forever grateful to all of the staff and students at Kyoto University who helped me. I especially thank Mr. Atsutomo Nakamura and Ms. Aya Kimura for the amount of energy and care they put into my visit. I aspire to give back to Japanese people visiting Northern California (NorCal) and UCD. So, if you are planning a visit to NorCal, please let me know. If you are reading this and met me during my Kyoto visit, please e-mail me at jlbarnhill@ucdavis.edu to let me know your favorite memory or something you learned from me.

[和訳] 京都大学―カリフォルニア大学Davis校 スタッフインターンシップ交換プログラム

ジョディ・バーンビル

この夏私は1か月間京都大学に滞在し、とてもすばらしい経験をしました。私はカリフォルニア大学Davis校の国際課でデータベースと出入国管理の専門職として留学生や外国人研究者のサポートを行っています。留学生や研究者の出入国管理と、彼らがアメリカ文化に適応できるようサポートしています。7月に私は、京都大学―カリフォルニア大学Davis校スタッフインターンシップ交換プログラムによるインターンスタッフとして、京都大学国際企画課で働きました。このプログラムは2006（平成18）年に始まったもので、国際的な教育についてスタッフ同士が互いに学び合い、意見を交換し合う機会となっています。

1ヶ月の滞在期間中、国外へ留学する学生や研究者また国内へ留学してくる外国人留学生や研究者をサポートしているスタッフ、京都大学の国際化を担っている事務職員、その他の学内基盤を支えているスタッフと話す機会を得ることができました。そこで私が感じた京都大学や「2x by 2020」と呼ばれる京都大学の国際戦略に対する印象について述べさせていただきます。それらに加え、私の修学院での滞在や言葉の壁、祇園祭の経験についてもお伝えします。京都大学に滞在したのはたったの1ヶ月間でしたので、私は決して京都大学のことをよく知る者ではありません。ですので、わたしはミシェル・ド・モンテーニュの言葉を引用しておきます。「私が言うことは軽い会話の類いであり、忠告ではない。もしそれを信じてもらわなければならないとしたら、私はこんなに大胆には話せないだろう。」

2013（平成25）年、京都大学とカリフォルニア大学Davis校はそれぞれ独自に大学の国際化に関する2020（平成32）年までの計画を打ち出しています。どちらの大学も、これらの計画を推進しているのは財政的な理由からです。多くのアメリカの大学と同様、カリフォルニア大学Davis校は、この10年余り政府からの資金が次第に縮小していることを受けて、学部の留学生の受け入れを大幅に増やすことにしました。2009（平成21）年の初め、日本政府は大学の国際的な競争力を維持するために国際化に更に力を入れることとし、文部科学省がグローバル30と呼ばれる事業を導入しました。そして昨年、このプログラムに代わってスーパーグローバル大学 (SGU)と呼ばれる事業が始まりました。京都大学の「2x by 2020」計画はグローバル30には対応していますが、新たにSGU計画や山極壽一新総長のビジョンを取り込む内容とするために現在調整が行われています。私はグローバル30やSGUのビジョンに感銘を受けました。これらのプログラムがプログラムに参加する英語を話せる学生や日本の学生の国際競争力強化に長期的な効果をもたらすことは確実でしょう。しかし現実的には、関係者各自が最善の努力を尽くしているものの、英語のみのプログラムを組み込むことや多くの英語を話せる学生の獲得には何年もの歳月がかかり、スタッフ補強の追加投資も要することになるでしょう。

私の観点からすると、資金繰りの手段やサービスの実現においていくつか欠けている要素があります。まず1つ目が、外国人留学生や研究者の住居管理はそれを専門とするスタッフの仕事であると言うことです。国際交流サービスオフィスのスタッフが大学や民間の住居管理を行うことは継続できるやり方ではないように思います。2つ目に、大学の各研究室にはポスドク、大学院研究助手、技術者が必要です。これらの人員を増やすことは教員だけでなくすべての学生や研究者にとっても有益なこととなります。3つ目に、専属の異文化プログラムのスタッフを置くことが京都大学にとって有益であると思います。国際交流センターがすでに対応されているかもしれませんが、もしそうでなければ、京都大学は異文化プログラムのスタッフに投資するのが賢明な選択でしょう。なぜなら異文化プログラムスタッフは、外国人受け入れに伴う様々な作業を効率的に行い、日本人学生と留学生が交流する仕組みの促進や学生主導のプログラムやイベントの基盤づくりを行うことができるからです。カリフォルニア大学Davis校では、大学の国際化の最も難しい部分の一つがアメリカ人の学生と留学生が互いに交流できる方法を見つけることでした。私たちが行った最も効果的なプログラムの一つがGlobal Ambassadorプログラムです。そのプログラムではアメリカ人学生と留学生が新たにやって来る留学生のメンターになってサポートします。京都大学の日本人学生のために英語を話せる学生の存在を活かすには、日本人学生と外国人留学生が互いに関係を築けるような方法を見出す必要があります。もし必要な人員のための資金が得られないのなら、日本政府は京都大学が多様な収入源から必要な資金を得られるように柔軟性を与えるべきでしょう。それには、宿泊費や授業料、その他のサービス利用料を引き上げることが必要になるかもしれません。

短期の外国人滞在者の観点から、京都大学のスタッフが提供するサービスは非常に素晴らしいものでした。京都大学での私の体験の多くは、英語を話せる人と一緒に仕事をした中でのものです。もし一人で放っておかれていたとしたら京都でどのような経験をしていたかはわかりません。国際企画課の方々に修学院への入居や初めての買い物を手伝っていただき、電車の乗り方、京都や京都大学のことを色々教えていただきました。修学院は京

都や京都大学に初めて来る外国人にとって素晴らしい場所です。そこの管理者のミチコさんは面倒見の良い親切な方でした。修学院の食器棚を見ても、京都大学で新しく生活を始める人達への気遣いがわかります。ラウンジも私のお気に入りでしたし、7月に行われた修学院の居住者向けの歓迎イベントも楽しいものでした。食事も会話も催しも最高でした。私も余興を行うことになり占いをするなど、とても楽しい時間を過ごしました。

提供されていたサービスに関しては、私が修学院で会った外国人留学生や研究者は満足していて、上手く順応しているようでした。全てのスタッフがプロフェッショナルで、知識が豊富で、素晴らしいカスタマーサービスとコミュニケーションスキルを持っていました。国際交流サービスオフィス、国際教育交流課、国際交流センターのスタッフとの話から、京都大学で提供されているサービスとカリフォルニア大学Davis校で提供されているサービスはよく似ていましたが、いくつかの相違点にも気づきました。一つの大きな違いは、国際交流サービスオフィスが日本政府に入国審査請求を提出するためのオンラインシステムが無いという点です。これは日本の全ての大学においても同様かと思います。2つ目の違いは、カリフォルニア大学Davis校にはもっと多くの学生スタッフがいて、学生が運営する学内サービスがあるという点です。私のオフィスには3人の学生スタッフがいて、受付や基本業務の手伝いをしてくれています。京都大学のオフィスでは学生スタッフを見かけませんでした。別の違いとしては、常勤職員よりも時間雇用や派遣職員の数の方が多いという点です。最後に、京都大学のコンピューターネットワーク基盤や情報技術サポートはカリフォルニア大学Davis校よりもはるかに高性能で信頼性の高いものでした。京都大学が技術基盤に多額の投資を行っているのは明らかで、そのおかげで、各自の仕事が能率的で充実したものになっています。

言葉の壁について日本語で表現するとしたら、私は「なんてこった (Oh my God!)」というでしょう。もし国際企画課の手厚いサポートがなければ、私の日本語能力では職務に支障をきたしていたでしょう。日本語を学びながらフルタイムで勉強したり働いたりすることは私には想像もつきません。私が日本で勉強したり働いたりするためには、その準備として2年間は日本語の学習に費やさなければならないでしょう。言葉の壁に関して言えば、アメリカ人であっても日本人であっても、その国に行くことに強い関心をもっていること、言葉の壁を克服できるようにその言語しか使えないような環境に身を置くことが必要であると思います。英語圏の人の日本語の習得や日本人の英語の習得に要する時間と難易度を考え、日本の大学が英語を話す留学生を増やす方法を見出せるように、また日本人学生が海外留学や自国の大学でアメリカ人の友人をつくって英語を習得できるように推進するには、日本政府の資金援助が必要であると思います。アメリカ人に関して言えば、日本語ができなくても日本で学位を取ることができるという素晴らしい機会があるとわかれば、京都大学や他のスーパーグローバル大学で学位を取るためにやって来るアメリカ人も増えるでしょう。日本の学生については、ゆったりと英語を学びながらアメリカで日本語のみのカリキュラムを取れるような機会はないため、英語の習得に大変な努力が必要となります。

最後に大事なことを言い忘れていましたが、祇園祭が行われる7月に京都にいられて本当に幸運でした。祇園祭の良い思い出は、古くから続く伝統を歩いて見て回り、参加できた時間です。鴨川沿いを歩き、祇園祭を楽しみにして早朝に神社やお寺で座っていた静かな時を思い出します。七夕祭りでは、短冊に願い事を書いて笹に飾りました。人混みの中を歩き、宵々山で初めてライトアップされた鉾や山鉾巡行を思い出します。下鴨神社のみたらし祭など、他の祭りも楽しむことができました。その中でも祇園祭はおそらく私の人生の中で最も素晴らしい祭であり、祇園祭に行けるように助けていただいた京都大学のスタッフに感謝しています。

今回の滞在で「人生はリハーサルではない（常に本番である）」という言葉を再認識しました。私はこの交換プログラムの参加にあたり十分な準備をしていたとは思っていません。京都に向けて出発した時、それも「まあよし」と思うしかありませんでした。しかしその状況が、私により素晴らしい成長をもたらしてくれました。京都大学でサポートしていただいたスタッフや学生の皆様に一生感謝します。私の滞在を大いにバックアップしてくれた中村敦朝

さんと木村彩さんには特に感謝しています。ノースカリフォルニアやカリフォルニア大学Davis校を訪れる日本の皆様にお返しできればと思っていますので、もし皆様がノースカリフォルニアへ来る予定があれば連絡してください。この記事を読んでいる人の中に私の京都の滞在中にお会いした方がいれば、jlbarnhill@ucdavis.eduにメールしていただき、私との思い出や私と会って知ったことを教えていただければと思っています。

Photo of the farewell party
（送別会）

お知らせ

Microsoft社主要製品の販売価格・内容等が変わります

本年6月、京都大学はMicrosoft社と包括ライセンス契約を締結しました。

包括ライセンス契約では、大学がまとまった金額を販売業者にあらかじめ支払い、教職員・学生は自由に対象製品を利用できるというケースが一般的ですが、今回本契約を締結するに際しては、「使用者が応分の費用を負担する。」ことを前提としました。具体的には、京都大学生活協同組合（以下、「生協」という。）がMicrosoft社に対し包括契約に基づく金額を支払い、当該費用の回収を含め対象製品に価格設定をして学内で販売することとなり、ユーザー側からみた入手方法はこれまでと変わりません。

ただし、ユーザーが今後生協を通じて対象製品を購入される場合、以下の点で従来とは異なることとなる予定ですので、ご留意ください。

●対象製品

Office Professional、Office Standard、Word, Excel等の個別製品（以上、Windows用、Mac用とも）、
Windows8.1 Upgrade、Windows10 Upgrade（Windows本体は対象外）、
DreamSpark Standard、Office 365 ProPlus　等

●製品の使用期間が設定されます。

今回締結した包括契約はサブスクリプション形式と呼ばれるもので、売り切り・買い切りではなく特定期間内の使用権を販売・購入するものです。（Microsoft社が大規模教育機関に対して提示する包括契約は、今後この方式にシフトされる予定であり、価格面でのメリットや追加特典があります。）ユーザーは製品の使用期間に応じた金額を支払い、ライセンスを入手することとなります。（現時点では、年単位で最長4年までの使用権が販売される予定です。）

なお、使用期間中に製品のバージョンアップが行われた場合、追加料金を支払うことなく最新バージョンを入手することが可能です。

●販売価格が変わります。

2015（平成27）年10月現在、生協で販売されているMicrosoft社製品の価格は、以下に掲載されています。

http://www.s-coop.net/service/book_pc/009945.php

使用者の多いOffice 2016 Professional Plusを例に挙げると、公費で購入する場合19,008円、公費以外の一般購入の場合 20,088円（ただし3本以上の購入が必要）が現在の販売価格です。

現状は永続ライセンス、今後は使用期間を限定したライセンスということで、一概に比較できない面はあるものの、今回の契約に基づく製品の販売価格設定については、4～5年の使用を想定し、現状と比べそん色のない価格設定を行うべく、現在生協で検討中です。

特に一般使用分については、包括契約の特典を活用して低価格化を図り、本学在職（在籍）中の教職員・学生がよりリーズナブルな価格でMicrosoft社製品を使用できるよう、検討が進められています。

以上の変更は、Office2016の販売に合わせて実施される予定であり、具体的な販売価格や製品販売方法等、詳細については現在情報環境機構と生協の間で詰めているところです。

なお、言うまでもありませんが、現時点で既に入手されている永続ライセンスによるMicrosoft社製品については、本契約締結の影響を受けることなく、引き続き使用可能です。

（呑海　和彦：企画・情報部情報推進課課長補佐）

便利なスマホ情報

大学生活に役立つスマホアプリ・ツール紹介

今やスマートフォンは生活に欠かせない道具です。ここでは、京都大学での生活を便利に過ごすためのスマートフォン向けのアプリやツールをご紹介します。

■「京大マップ」　京大マップ URL：http://www.kyodaimap.net/

京大マップは地図上で建物や教室、新歓・セミナーなどのイベント情報を検索・表示できるので、迷わず目的の場所にたどり着くことができます。また、イベント情報は誰でも投稿できるので、多くの学生に簡単に告知を行うことが可能です。このアプリは、App StoreやGoogle Playから無料で入手できます。

図1：京大マップ　アプリアイコン

図2：京大マップ　スクリーンショット

■京大ラクラク設定ツール

「京大ラクラク設定ツール」は iPhone/iPad/Mac 向けの大学の基本サービスの設定ツールです。このツールを利用すると、面倒なサーバの設定を入力することなしに、安全に大学のメールや Wi-Fi などのサービスを利用することができます。

特に、京都大学の公式Wi-Fiサービス（KUINS-Air）の利用については、接続するアクセスポイントの正当性を保証する証明書が埋め込まれていますので、なりすましアクセスポイントに接続してしまう危険が少なく、安心してWi-Fiサービスを利用できます。新しいiPhoneやiPadを購入したときに、このツールで大学関係の設定を簡単にしてみてはいかがでしょうか。

[京大ラクラク設定ツール（学生向け）] https://www.rd.iimc.kyoto-u.ac.jp/apps/kyodairaku2/index-ecs.html

[京大ラクラク設定ツール（教職員向け）] https://www.rd.iimc.kyoto-u.ac.jp/apps/kyodairaku2/index-sps.html

京大マップのアプリは元々京大在学中の学生によって開発され、現在はUnimapという会社により運営・提供されています。また、京大ラクラク設定ツールも在学生が開発したものが、情報環境機構の「キャンパスICTラボ」サービスとして提供されるようになりました。このように、学生のみなさん自身の力が、学内向けのスマホ環境の充実に役立っています。

（森村 吉貴：情報環境機構システムデザイン部門 助教）

サービス紹介

事務用統合ファイルサーバサービスの展開について

現在、ファイル共有サーバについては、事務部毎に運用しているため、サーバ管理やユーザ設定、バックアップといった作業にかかる管理者の負担が大きくなっています。

情報環境機構電子事務局部門では、これらの負荷の軽減や、事務業務での情報共有の効率化、セキュリティの強化を目的として、事務本部棟で運用している事務用統合ファイルサーバサービスを共通事務部等に展開することを計画しています。

■サービス内容

ファイル共有のシステム構成については、市販のソフトウェア等を含めて検討した結果、一般的に利用されているファイル共有方式（Windows ファイルサーバ、一般的な NAS の方式）をオンプレミスとし、ユーザ認証に SPS-ID を利用することにより、ユーザ管理を軽減しました。

また、BCP 対策を行うために、外部データセンターへの定期的なバックアップを行っており、さらに、当該サービスの重要性を勘案し、サーバ機自体の冗長化を行うことを検討しています。

サービスの利用にあたっては、接続に必要なライセンス（※）を購入していただく必要がありますが、その後は経費の負担はありません。

※Windows2012 UserCAL（参考価格： 1 ライセンス 1,620 円［税込］）

■メリット・デメリット

●メリット

- SPS-ID の利用によりユーザ登録が不要で独自 ID の管理の手間が軽減
- ハードウェアの購入や管理が不要
- バックアップのための機器の購入・設定が不要
- 他部署とのファイル共有が可能
- 適切な機器の管理及び移行時におけるフォルダ構成、権限設定の標準化によるセキュリティの担保
- ランニングコストが不要（ライセンスの追加購入を除く）
- BCP 対策による大災害時のデータ保全が可能

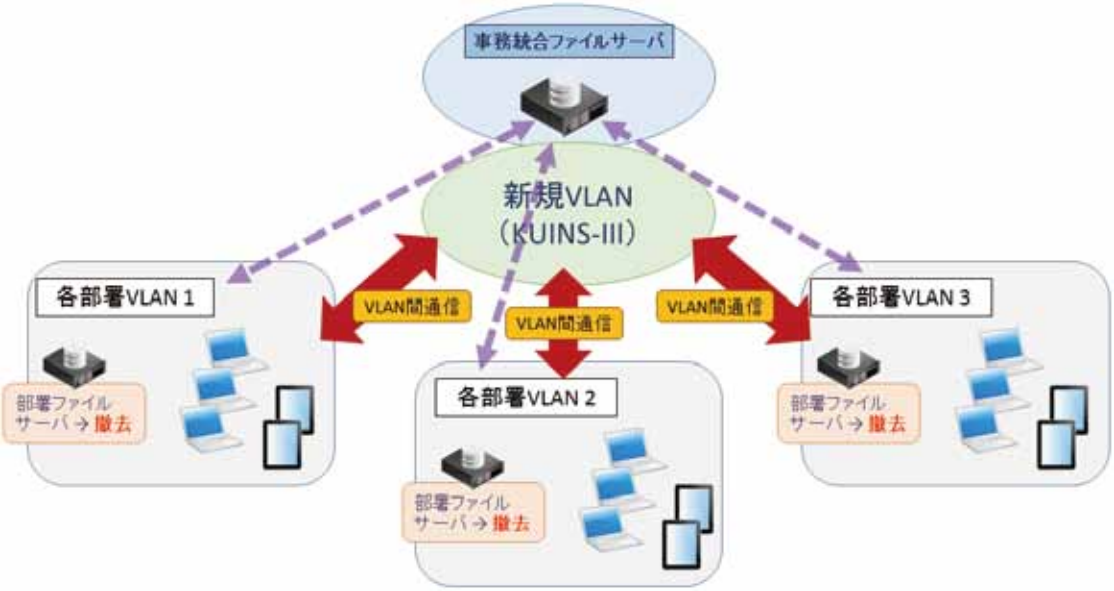
●デメリット

・SPS-ID が必要
・業務効率化及び運用負荷の軽減を目指し、構成を標準化するため、自由な構成 / 設定に制限あり（個別対応は可能）
・ネットワーク障害時は利用不可
・ライセンス（Windows2012 UserCAL）が必要
・一部 OS(Windows Vista、Mac) での接続には別途設定が必要

■問い合わせ先

事務用統合ファイルサーバサービスの利用は事務組織のみを対象としています。
利用希望やご不明な点があれば電子事務局までご連絡ください。
内線番号：本部 16-2198
e-mail: e-office@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（澤田 浩文：情報環境機構 IT 企画室／企画・情報部情報推進課電子事務局掛 掛長心得）



ネットワーク構成図

お知らせ

無線LAN みあこネット (MIAKO) のサービス終了について

このたび「みあこネット (MIAKO)」のサービスを 2016（平成 28）年 2 月末をもちまして終了することとなりました。今後は「KUINS-Air」「eduroam」をお使いください。
「KUINS-Air」「eduroam」は「みあこネット (MIAKO)」と同じエリアで利用可能となっております。また、「KUINS-Air」は PPTP 接続設定等も不要で、SPS-ID/ECS-ID 及びパスワードのみで接続が可能なので簡単にお使いいただけます。

長年「みあこネット (MIAKO)」をご利用いただきありがとうございました。

イベント情報

京都大学学術情報メディアセンターセミナー

京都大学学術情報メディアセンターでは、月に一度、各分野でご活躍の講師をお招きし、それぞれの研究開発活動の内容や現在抱えている課題についてご紹介いただき、参加者を含めて広く議論を行う機会として、月例セミナーを開催しています。

いずれも事前の参加申し込みは不要です。学内外を問わず多数の方の参加をお待ちしています。

イベント情報URL　http://www.media.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html

●11月定例セミナー

日　時：2015(平成27)年11月24日（火曜日）16:30～18:30

場　所：学術情報メディアセンター南館2階　202マルチメディア講義室

題　目：まるっとわかるマイナンバー関連サービスと民間サービスへの利活用

プログラム

16:30～17:30　マイナンバーシステムと関連サービスイメージ
森畠 秀実 部長（NTTコミュニケーションズ株式会社 ソリューションサービス部）

17:30～18:30　マイナンバーで広がる電子署名・認証サービスの民間利活用
手塚 悟 教授（東京工科大学 コンピュータサイエンス学部）

問い合わせ先：学術情報メディアセンター/情報環境機構　永井 靖浩
ya.nagai@ media.kyoto-u.ac.jp

コンピュータソフトウェア著作権セミナー

教職員のコンプライアンス(法令遵守)が厳しく求められています。

特に普段利用しているPCにインストールされているソフトウェアについては、意識せずに著作権を犯してしまう事例が多く発生しています。

そのため、コンピュータソフトウェアの利用に際し著作権を正しく理解していただくため、コンピュータソフトウェア著作権セミナーを下記のとおり開催いたします。

各部局の教育研究組織部門、事務組織部門から、それぞれ少なくとも1名の参加をお願いします。とりわけ、法令遵守またはリスク管理を取り扱う部局内の組織がある場合は、その構成員の方が参加されるよう、ご配慮ください。

※本セミナーは本学構成員を対象としております。

日　時：2015（平成27）年11月26日（木）13:30～16:30

場　所：京都大学学術情報メディアセンター南館2階　202マルチメディア講義室

コラム

セキュリティの話題から　第6回
『あなたのパソコンの中、どのような重要な情報が保存されてますか？』

とんでもない時代になったものです。

一昔前にウィルスに感染した時の被害と言えば、パソコンの機能が破壊される、ファイルを破壊されるといったものでした。その当時も感染したパソコンの使用者は困りました。パソコンがしばらく使えなくなり、必要なファイルが破壊されると一から作り直しですから。でもこの時代は、よく使うファイルのバックアップを取っていれば、多少復旧に手を取られる程度で、社会的な責任を問われることはありませんでした。

ところが、今のウィルスは全く違います。使用者に気づかれないように、こそ～～っとパソコンに保存している情報を盗んで行きます。わざわざパソコンの機能やファイルを破壊して、存在を使用者にアピールするようなことはしません。突然外部の機関などから指摘されてはじめて、自分のパソコンがウィルスに感染し、情報を盗まれたことを知るのです。そして盗まれた情報が、個人情報や機密情報だった時、パソコンの使用者だけではなく、その者が属する組織も大きな社会的ダメージを負うのです。

このコラムでは、読まれている皆さんが、「情報漏洩を引き起こしてしまったパソコンの使用者」にならない一番の方法をお示ししたいと思います。まずその前に、自分のパソコンがウィルスに感染しないという根拠のない自信は捨てて下さい。ウィルスにはいつか感染するという前提に立ち、それでもあなた自身や属する組織に大きなダメージを与えない対策をとることが、今の時代には重要です。

答えは、非常にシンプルです。パソコンの中からウィルスによって持ち出される情報をなくし、『情報漏洩』そのものが発生しないようにすることです。つまり、使っているパソコンに、個人情報や機密情報を「保存しない」ことが、パソコンの使用者にとって最高の、ウィルスによる情報漏洩への対策です。

ところで皆さんの中で、自身がお使いのパソコンの中に、どのような重要な情報が保存されているか、全て把握されている方はおられますか？どれほど上手に整理している人でも、全てのファイルを把握している人はほとんどいないのではないでしょうか。日々、業務や研究などで作成したり、メールに添付されてくる文書類。これらを正しく把握し、必要に応じて暗号化して安全に保存出来る人など、非常に稀有な存在だと思います。

では、稀有でない普通の人はどうするか。方法は簡単です。パソコンから放り出して「安全な場所に保管する」のです。文書ファイルは、アクセス管理がきちんと施されたファイルサーバに保存し、作業用コピーもパソコンには保存しない。メールはWEBメールで読むか、IMAPを利用して、パソコンのメーラがメールを同期する期間を短く設定する。これだけです。たったこれだけのことを徹底するだけで、あなたのパソコンからウィルスにより情報漏洩を引き起こすリスクが格段に低減されます。さらに、ファイルサーバなどにアクセスするときのパスワードも、パソコンに記憶させずに安全に保管すれば、あなたのパソコンがウィルスに感染しても、情報漏洩を引き起こすことはほとんどないでしょう。

もちろん、これでも絶対に安全とは言えません。キーロガーなどでパスワード入力を盗み見され、ファイルサーバの認証を突破されて情報を持ち出される可能性は残ります。本気で特定の情報を狙い、その情報を得るためにあらゆる手段を講じてくる攻撃者には、組織全体で対策を行う必要があります。

お使いのパソコン自体から情報漏洩する懸念を払拭できれば、安心して業務や研究に励むことができます。「あなたのパソコンの中、どのような重要な情報が保存されてますか？」と問われた時、「パソコンの中には、重要な情報そのものが、何もない！」と答えられる。そういう環境を目指しませんか。

（片桐　統：情報環境機構IT企画室/企画・情報部情報基盤課セキュリティ対策掛長）

京都大学情報環境機構
Institute for Information Management and Communication, Kyoto University

編集・発行：京都大学情報環境機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
Webサイト　http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/

掲載記事に関するご質問やご意見・ご感想などありましたら、ぜひ下記までお寄せください。

【総合窓口】
情報環境支援センター
E-mail：support@iimc.kyoto-u.ac.jp